

# さ ざ ん か

第69号、2007年7月

あつという間にかどうかは人それぞれで違うかもしれませんが、今年も1年の半分が終わりまた暑い夏がやってきました。ちょっと待って。もう少しゆっくり流れてよ、と時間に言いたい。でも、もう夏がきてしまいました。私にとっての夏の思い出はどうしても子供のときの夏になってしまいます。大人になってからは殆ど同じような夏を過ごしているからでしょうか。大体、社会に出てからはあまり大胆な行動は出来ずに日々の仕事に勤しまざるをえないので、心に残る思いでは少年時代から青年時代のものが残るのでしょうか。

社会人になるとどうしても大胆な発想とか行動よりも、より世間に基準を置いた常識的な行動をせざるを得ないのが普通ですからね。学校を休むのは簡単でも仕事を休むのは大変です。早く現役をリタイアして思い出に残る夏をつくりたい、ような気もするしもう少し社会と密接に関わっていたい気もするし。どちらにしろ自然体でいくしかないようですね。

## ==== 病院からのお知らせ =====

- \* 内科宮原広典部長が鹿児島大学へ異動し、福田引志医長がそのあとの部長になりました。
- \* ただし、宮原医師は週2回非常勤で当院で診療いたします。
- \* 毎週月曜日、肝臓病外来を開始いたしました。鹿児島大学第2内科の肝臓病専門医が担当いたします。
- \* 外来の採血開始時間を午前8時半から8時に変更しました。
- \* 濱田裕幸医師から、米山知秀医師へ放射線科部長が変わりました。
- \* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。
- \* MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中やボケ（認知症）の予防につながることもあるからです。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。
- \* 大口パレット会の展示画が更新されました。どれも力作ばかりです。病院の中の美術展をお楽しみください。
- \* マルチスライスCTで、冠動脈造影もできます。その他全身の血管撮影に威力を発揮します。人は血管と共に老いる、ともいいます。MR血管撮影とあわせて利用できます。ご相談は各科の主治医にどうぞ。

## 目標になる人を見つけよう 宮園辰夫

若いうちから上手に年を取る努力をしないと、高齢化社会での楽しい老後はないと思ふ。中高年の夫婦で、男が倒れると妻に邪険にされて、ろくに世話もされないといふ例がたくさんあるそうだ。何というか、妻のほうに積年の恨みがあるのだろうか。威張って暮らしている亭主族は先が暗い。健康なうちから楽しい事は何時も分かち合っていないと返しが来る。女が倒れると、夫は一生懸命に看病して家の中もきちんとする。妻のありがたみがわかるんだ。丹精するという言葉があるが、花や盆栽を育てるのと同じ。夫婦の間も、丹精をこめなければ、花器や茶器は古いものは珍重されるが、磨き込んで今でも使えるものぢゃないと、意味がない。

仕事をリタイアした男が、いつまでも昔、何をしていたかにこだわるのは良くない。今、何が出来るかで人は判断されるんだ。若い人達が羨むような老人になりたいものだ。それには、自分より十歳年上のステキな目標になる人を見つけ、暮らしていくことだという。年を取って仕事が出来なくなってもボランティアならできる。国や町の行政が実施したらつまらなくなる行事も、地元と個人が楽しんでやる企画なら、心の寂しい人にも、喜んでもらえるんじゃないかと思う。人の一生というのは、若い頃がどんなによくても、老後がつまらなくては大損だと思う。「終わりよければすべて良し」という言葉があるが、上手に老けるということは人生の有終の美だ。若い時に苦勞して、いい汗を一杯かいたヤツにこそ、いい年寄りになってもらわなくてはいけない。人間誰でも、いずれは老いて死んで行く。それは避けることはできないんだ。年を取ることを楽しまなくては。老いた自分を卑下したりせず、むしろ誇りを持って威張って生きて行かせう。

### 短歌

水害の後生々と残りいる我が街の被災

1年前足あげ散歩したりしに今はたやすく石につまずく

### さつま狂句 キンカン

ほんま 本当こて胃が痛<sup>いと</sup>なった入社試験

運動会<sup>とじ</sup>歳じやち<sup>ゆ</sup>た時や<sup>はんころ</sup>汎転っ

星の宵 蛍舞ふ川 流れけり  
梅の実の 最後の一顆を 拾ひけり  
ほうたるや 二人寄り添ふ 窓辺かな

金言 貴島高則

地主の足跡は土地を肥やし、飼い主の目は馬を肥やすと云はれています。ナースの微笑は病気を癒す、と微笑は美粧に勝るとも云はれています。ナースの必須要件はいろいろあると思いますが、私はこれが一番だと思っています。今度、入院につきいろいろご迷惑をおかけし、お世話になりました。紙上をおかりして厚くお礼を申し上げます。たった一つの教訓でもっと明るく生きられる。ちょっとした一言やたった一つの教訓が人生を変えることがあります。

- 1) 自分らしく自分に恥じない生き方を 上杉謙信
  - 2) 一步一步着実に積み重ねていけば予想以上の結果が得られる 豊臣秀吉
  - 3) 負けてもあきらめず可能性を求め挑戦する 山中鹿之助
  - 4) 人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は大敵 武田信玄
- 努力すれば必ず道は開ける。

私の夢 平城エミ

その年になって、未だ夢があるの、と笑われるかも知れない。しかし私には出来る事なら手に入れたい夢がある。

何十年かぶりかで通る里道は、コンクリートに固められ、夫々の家に巡らされていたキンチク竹の生垣は、どこもブロック塀となり、幼い日椎の実を拾った里山は、ペロコン住宅とやらが立ち並ぶ団地となり、見遥かす山々は杉桧の人工林となってしまっている。秋はシメジを見つけた赤松林も跡形もなくなくなって、嘗ての詩情も面影もない故郷になってしまった。第一あの痩せ細ったコンクリート護岸に守られた羽月川を眺めるとき、秋の寂しさは極みに達する。

今世界中に砂漠化が進んでいるという。吾々の周辺でさえ、年々失われていく緑が数えきれぬ程あるというのに、広大な熱帯雨林を容赦もなく伐採する。自然環境破壊に大きな力を及ぼしているのが、吾々の贅沢な消費生活だと聞かされまた、荒廃し飢餓に苦しむ現地の映像を見ると、自分にできることはないのかと思わず周囲を見廻したくなる。

せめて老いたる私にも出来ること。遠くでなくてもよい。大きな事でなくてもよい。一

人の人間が仮に年に 1 本ずつの木を植えても、十人寄れば十本、十年経てば百本、何処か手に入る土地があれば、照葉樹の林を造りたい！！そこに雑木林が出来れば、自分が死んだ後も樹木は活きつき、やがて実がなり子孫を残し、そこに小さな生命が育ち、生態系の輪廻がはじまる。

貧しく生まれ土地などといふ財を持たぬ私は、春夏秋冬と共に華麗にその粧いを変えて、私共に癒しを与えてくれる照葉樹の生い繁る雑木林を持つ事の方が、ブランド物のバッグよりも、ダイヤモンドの指輪よりも、遥かに価値があり、憧れでもあるのである。

伐採して換金しようなどというのでなく、自然のままに任せて、何時の日にか自然林にかえるその日が、自分の生命あるうちに見えずとも、この故郷の一角に土地を育て生き物を育む一区画の緑の山があると思えば、どれ程心も豊かになる事であろうか。

営林署が人工林の共同管理の区画を売り出しをしたように、雑木林の売り出しを計画しないものかと何時も思う事である。

どんぐりの実を拾って、縄文の森に持ってゆく事でもよい、老いた私にも出来る地球への恩返し、緑を取り返す事で瘦せた羽月川も息を吹き返す事は判っているのだから――。

年金生活とはいえ一本や二本の苗木くらいは何とかなるのじゃないかなあ―。何処かに憩いの森を造れないかな―。何時の日か、何時の日か、樹齢何百年の木が枝葉を広げて、この世に存在しているという事を想い描くだけで、倅せいっぱい。

何とかして手に入れたい雑木林。毎年見続けている夢を、今年も亦見続けている私。

(「空に咲く花―エドヒガン桜の里から―」より転載)

---

## カラーマン夏に思う

---

カラーマン (とその女)

また夏がやってきた。地球が太陽の周りをその自転の中心軸を傾けたまま公転するから四季があるのだと理科で習ったことすらもう遠いむかしのことである。(そりゃあまあ、あなたくらいの年になると中学生とかは遠い過去のことでしょうねえ。あたしもあの頃にもどりたいなあ、可愛かった少女時代に。ああ、なつかしい。) なんとなく覚えている地球の公転のこと。当たり前だが、それは記憶力があるからだ。よく考えると記憶という作業は人間にとってとても本質的なことだなあと思う。昨日の自分を覚えているから今日の自分があるのだ。過去を記憶しているから現在があり、現在を記憶するから未来もある。それを担保しているのが人間の脳細胞である。ヒトがヒトたる所以は脳細胞あってのことである。ココロもカラダもすべて脳があって初めて存在する意味があるのだ。今日の自分が昨日の自分を覚えていないとすると、昨日の自分も一昨日の自分も覚えていないことになり、それをずっとさかのぼるとそもそも覚えておくべき自分がなくなってしまう。いったい、何者だこの私はと。(たんなるアホですよー。)

もし、いま一切の記憶を失ってしまったとすると、これまでの自分の人生は一体どういうことになるのだろう。カラーマンとしてのこれまでの一切合財を失ってしまうだろう。いままで一緒に生きてきた人たちについても何も覚えていなければ、記憶と共に実際の過去も消失してしまったのと同じになる。遠い異国にすむ名も知らない人は私にとっては実際には存在しないことと同意義であるように、自分に関しての記憶がなければ、自分の存在がないということだ。(自分の名前も、生年月日も、昨日したこともみんな忘れてしまうってこと？ どうせなら、いやなこととか、いやな人のことだけ自然に忘れられたらいいのにね。でも、あなたのことだけは何かあっても覚えていたいなあ。)しかし、人間の脳細胞には記憶だけでなく、沢山の能力がある。理解力、計算力、判断力、言語能力、視覚、聴覚、皮膚感覚、触覚、味覚、怒り、悲しみ、嫉妬、歓喜、憎しみ、同情、共感、決断力、愛・・・などなど。

いま私がお前を愛したとしても(本当ならうれしいけど、どうせ単なる例えでしょう)、そのことを次の瞬間に覚えていなければそれは愛したことにはならないだろう。(でも愛は永遠である必要はないかもしれないわ)。様々な人間の脳細胞の能力が発揮されるのは記憶するという下支えがあればこそである。自分の存在を記憶できなければ自分が存在するとは言えない。

そういう意味で記憶を失っていく病気、アルツハイマー病やピック病はカラダを蝕むガンなどよりも深刻な病気であるともいえる。人間が人間らしく死ぬためには、やはり自分が誰であるか、どういう人生を送ってきたのかという確かな記憶は必要であろう。(いわゆる尊厳死ってやつかしら。あたしは別に尊厳を持って死ななくてもいいけどなあ。あたしはできたらかるーく死にたいなあ)

幸いなことにアルツハイマー病やピック病などは急速に進行する病気ではないし、直接生命に関わったりする類の病気でないから、ガンほどに深刻さが伝わらないことが多い。がん患者は手術をしたり、抗癌剤を使用したり、放射線をかけたり、ホリスティック医療に走ったり、祈祷師にすがったり、最後には尊厳死を求める機会も与えられているが、認知症患者にはそれらはきわめて困難である。自分が誰かわからなければ、自分の死を理解することは難しいであろう。私が私であるのは私の記憶が残っているからなのである。リビングウィル(尊厳死の宣言書)というものがある。最後に自分の死に方を自分で決定したいということである。カラダが死ぬ場合は有効である。しかし、脳が徐々に機能停止に近づいていく認知症にはリビングウィルの適応が難しい。

人間にとって自分らしさを失うという意味で最悪の病態は認知症である。それにも関わ

らず、認知症に対する世間の認識と対策は遅れている。1人のがん患者を家族が看取るのは大変である。しかし、1人の認知症患者を最後まで看取る困難さはそれをはるかに凌ぐ。医療にすらつぎ込むのを惜しんでいる国費を介護につぎこむのをさらに惜しんでいるのがニッポン国の実情である。しかも、その介護をお金儲けができると勘違いして（2006年度の介護費用6兆4千億円）拝金主義者がつけねらっているというなんとも悲しい現実がある。（グッドウィルとかピンハネで儲けようとする人材派遣会社とかでしょう。本当に頭にくるわね。）医療や介護でお金儲けなんかしないでいいと思うのだが。（あら、でも日本のお金持ちの代表には必ずお医者さんがあがってくるわよ。医療で儲かっている人が居るから、それをみて介護でも儲けようという人が出てくるのじゃないかしら。）

記憶を失ってしまい、看病しているのが自分の子供達であることすら理解できない親は、人間であることは間違いないであろうが、どこまで彼らの親であるのだろうか。自分のことを完全に忘れてしまった親と、もともと自分のことを知らない他人との違いはどこにあるのか。おそらく、認知症を患った親にとってはもうあなたが子供である意味はないであろう。意味があるとすれば記憶が残っているあなたにとって、間違いなく彼らが親であるということだろう。（うーん。つまり愛されなくても、愛することは出来るってことかしら。覚えられていなくてもこちらが覚えていればそれでいい。愛に見返りは求めてはいけない？無償の愛＝親子の愛かしら？）

人には寿命があり、天命がある。いやでも時間は過ぎ去り、肉体は老いさらばえていく。記憶を積み重ねていくのが人生であるとすれば、その記憶の質と量で人生の豊かさ、深さも決定されるのであろう。そのさい、記憶の蓄積に果たすお金の役割は極めて少ないであろう。一方、蓄積された記憶を美しくするためには愛がその研磨剤になるであろう。（あと、ウソも意外と記憶を磨くような気がするなあ。記憶って自分に都合がいいように残りやすいでしょう？そして、あなたは都合が悪くなるとすぐ忘れたふりをする・・・）

今年の夏、どんな記憶が私たちの脳細胞に蓄積されていくことであろうか。

#### 編集後記

恐ろしかった台風4号も無事通過してくれました。こういう時は、日頃はやさしい自然の二面性を改めて感じます。多分、人もいろいろな程度に二面性を持っていることだと思います。大事なことは、そのよい面を如何に発揮できるような環境を作るかということでしょう。田舎の人のよい青年が、戦地に行くと人間性を失ってしまうのは彼の責任のみではなく、彼を戦地に追いやり人間性を失うような状況を作った人たちにその責の多くを求めべきでしょう。(KT)

発行所：県立北薩病院さざんか編集局

発行責任者：高橋浩一